

県民の安心の
拠り所となる
病院であること

K o h a r u b i y o r i
VOL. 61

こはるびより

愛媛県立中央病院広報誌「小春日和」



当院肝胆膵ロボット支援手術のい・ろ・は



— 当院肝胆膵手術のプロフェッショナルたち —

- Index**
- P1-2 当院肝胆膵ロボット支援手術のい・ろ・は
 - P3 診療科紹介「心臓血管外科」
 - P4 ドクターズカルテ、研修医紹介
 - P5 医療の質を継続的に向上させるための取り組み
 - P6 ボランティア活動&募集・認知症看護認定看護師紹介
 - P7 東洋医学公開講座募集、医療安全管理部だより No.52
 - 転入・転出医師 (2023.9.1 ~ 2023.11.30)
 - P8 連携医療機関紹介 ~第 32 回~

ご自由にお持ち帰り下さい

【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地
TEL:089-947-1111 2023年11月30日発行



愛媛県立中央病院

当院肝胆膵ロボット支援手術のいろは



ロボット支援手術とは・・・

手術支援ロボット（Da Vinci Xi）を導入することにより、これまでの腹腔鏡手術をさらに発展させた手術といえます。術者は患者さんから少し離れたところからロボットアームを操作し、その手の動きが忠実にロボットに伝わり手術を遂行します。もちろん手術をしているのはあくまで外科医であり、知能を持ったロボットが自動的に手術を進めるわけではありません。

ロボットアーム



肝胆膵のロボット支援手術

一般的に肝胆膵手術では、立体的に複雑に走行する脈管の処理が必要となります。多くの繊細な手術操作を必要とするため、手術時間も長く出血量も多くなりがちで、腹部手術の中でも最も高難度な手術の一つとして認識されています。腹腔鏡手術は消化器外科では胆のう摘出術から開始されたにもかかわらず、その困難さゆえに肝臓や膵臓の手術は大腸や胃の手術に比べずいぶん導入が遅れていました。「最も傷の大きな肝胆膵手術に導入してこそ腹腔鏡手術の最大の恩恵が得られる」との思いから、当院では積極的に腹腔鏡手術を導入してきました。ロボット支援手術はその経験の上に成り立っています。

術者



ロボット支援手術のメリット

手術の傷の大きさは、一般的に傷が小さい方が、術後の疼痛が少なく、回復が早い傾向にあり、整容性（見栄え）の点でもメリットがあります。腹腔鏡手術により可能となった傷の小ささはロボット支援手術によりさらに小さくなるわけではなくほぼ同等です。ではロボット支援手術のメリットは何でしょう。一言でいえば、非常に精緻な手術操作が可能になるため、手術全体のクオリティーが上がるといえます。まず、3Dカメラの使用によりリアルな立体画像で手術をすることができます。実質臓器を扱う肝胆膵手術では特に重要で縫合手技には欠かせません。我々は腹腔鏡手術でもこだわりを持って3Dカメラを導入してきましたが、ロボット支援手術では手振れがないため、3Dのみならず近接した超拡大視野でも安定した手術操作が可能です。また手振れを制御する機能に加え、鉗子の多関節機能により自分の手指のように自由に動かすことができるため、非常に繊細な手術操作が可能になります。膵頭十二指腸切除術においては2mm程度の主膵管と空腸にあけた小孔を吻合することが要求されますが、このような高難度手技にこそ最もロボット支援手術の恩恵が得られるのです。



保険診療開始

2020年度の診療報酬改定により、膵切除術について厳しい施設基準を満たした病院に対しては、ロボット支援手術が保険診療の対象となりました。とりわけ「ロボット支援下膵頭十二指腸切除術」は、特に高度な技術を必要とするため、日本で本手術を施行できる医療機関はまだあまり多くありません。愛媛県内で保険適用となっているのは当院のみで、四国内でも当院を含め2施設のみとなっています。

※2023年8月現在：腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）の施設基準

なお、四国内では当院が初めて保険適用の施設基準を満たし、以後順調に手術を施行しています。2023年10月までの実績は、ロボット支援下膵体尾部切除術は14件、ロボット支援下膵頭十二指腸切除術は9件です。

診療科紹介 心臓血管外科



◀人工心肺
スタッフ

外来スタッフ▶



当科はすべての心・大血管疾患、末梢血管疾患に対して外科的に治療を行う診療科です。心・大血管疾患とは
①虚血性心疾患（バイパス手術）、②弁膜症、③胸部および腹部大血管疾患を指しています。

- ①近年、バイパス手術のうち8割程度の方は、人工心肺を使用しない心拍動下バイパス術で治療を行っております。人工心肺を使用しないために回復が早く、ご高齢の方にも治療を提供できるようになっております。
- ②弁膜症の中でも僧帽弁疾患は、自己弁を温存する弁形成術を積極的に行い、さらに皮膚切開をできるだけ小さくして低侵襲の治療をできるように努めております。
- ③大血管疾患は急性大動脈解離や大動脈破裂等の緊急症例を24時間体制で受け入れており、その成績も安定しております。また、ステントグラフト内挿術により低侵襲な治療をすることで、合併症や体力の問題で治療が難しかった方々にも治療を提供できるようになってきております。

2015年12月からは当科と循環器内科が中心となって、様々な部門と協力して循環器疾患の高度な診療を担うハートチームを形成しました。経カテーテル大動脈弁留置術（いわゆるTAVI）を県内で初めて導入し、開胸手術に耐えられない患者さんへの医療の幅が広まりました。これまで550人余の方に治療を行い良好な成績を上げております。また、当科は術後にもかかりつけ医の先生方と連携して、問題が発生した場合は速やかに対応させていただくよう努めています。



▲ステントグラフト手術風景



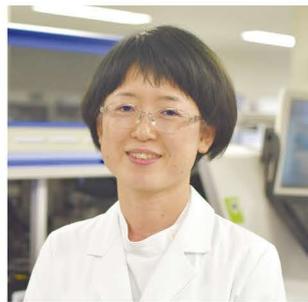
▲開心術手術風景

病理診断科及び検査部所属の二宮恵子と申します。広島県出身です。愛媛大学を卒業後、消化器内科の診療に従事し、2009年より当院検査部の専任医師になりました。臨床の現場と検査室の橋渡しのような役割で、臨床検査技師と協力して検査を適切に実施し、正確なデータを返却できるよう努めています。近年は遺伝子に関する検査の説明や手続きを技師・看護師・事務職の方々と連携して行っています。これまで学んだこと、経験したことを基に、病院に来られた方々が安心して医療を受けることができるよう精進していきたいと考えています。

私生活では家庭菜園を楽しんでいます。立派な収穫は得られませんが、芽が出た、花が咲いた、だけでも喜びを感じ気分転換しています。



▲検査室の皆さんと(本人は前列右から2番目)



▲今年育てた落花生。実がなりました！

当院の研修医を紹介します

1年次研修医 こが 古賀 ひろあき 裕朗医師

Resident

仕事以外の過ごし方を教えてください。

平日は家でくつろいでいることが多く、よく読書をして過ごしています。休日には研修医の同期とドライブや食事に行き、リフレッシュしています。

日頃気を付けていることは何ですか？

病院の温かい雰囲気作りに微力ながら貢献したいと思い、常に笑顔で挨拶することを心がけています。

今後の目標は何ですか？

研修医になり早くも半年経ちました。まだまだ知識・経験不足を反省するばかりですが、指導医の先生からフィードバックをいただくことで、自身の成長を日々実感しています。患者さんから学ばせていただくことも多く、少しでも還元できるよう精進していきたいと思っています。



▲腰椎穿刺のレクチャーを受けています



▲リフレッシュのドライブ！



医療の質を継続的に向上させるために、 当院では様々な取り組みを行っています!

改善推進本部長 名和 由一郎

当院では、医療の質を向上し続けるための部門として、「改善推進本部」という組織があります。全国的にはまだあまり一般的ではない新しい組織です。この組織は、標準的な治療や患者さんの安全を維持する体制の確保、患者さんの満足度を高める医療の提供について、常に監視し、管理していく役割を果たしています。

私たちの主な活動の一つに、病院内で発生する様々な課題に対処するために、現場のチームを結成し、共同で問題を解決する「TQM (総合的品質管理)」があります。これはもう11年続いており、これまでに127のサークルが活動しました。

今年度は、これまでの活動内容をデータベース化し、スタッフが簡単にアクセスできるようにし、現場の課題解決に役立てています。さらに、現場で起こる小さな課題を迅速に解決する「ワンポイント改善」も行っています。年に2回、現場で実施された成功事例を募集し、優れた事例は病院全体で表彰されます。

そのほか、当院の医療の質を常に評価し続けており、数値データを使用して全国の施設と比較し、当院の改善が必要な領域を見つけ出す「質指標を用いた改善」も行っています。病棟同士で互いに評価し合う相互評価や、病院内の整理、整頓、清掃、清潔、しつけに関する5Sの実施状況を評価するラウンドも行っています。また、日本病院機能評価機構からの外部評価も受け、改善に取り組んでいます。

これらの取り組みを通じて、当院ではすべてのスタッフが問題を認識し、改善に取り組む文化を築いています。

今年度の取り組み紹介



JICA (国際協力機構) からの推薦もあり、
世界の途上国17か国の研修生18名が当院の改善の試みを見学しに来られました。



▲院長が英語で当院を紹介



▲ワンポイント改善(英語版)



▲ラウンド中



▲ラウンド中



▲車いすの介助



▲自動再来受付機の案内

ボランティア部会の紹介

愛媛県立中央病院ボランティア部会は、病院内のボランティア活動を円滑に遂行することを目的として活動しています。現在、7名のボランティアさんが、正面玄関から外来1階・2階で案内や車いす介助などの外来ボランティアをしています。また、年次回院スタッフを交えたミーティングで、意見交換や表彰を行い、より良いボランティア活動に向けて日々励んでいます。

病院でボランティアをしてみませんか？

病院ボランティアは、病院内で医師や看護師、その他職員と協力して患者さんが少しでも良い環境の下で、安心して治療を受けることができるように活動しています。当院には、毎日多くの患者さんが訪れます。はじめて来られた方は、病院内で戸惑うことも多く、ボランティアさんの優しい声かけやお手伝い^{えがお}が安心につながります。特別な資格は必要ありません。皆さんの愛顔や温かいお気持ちの提供など、患者さんに寄り添った活動をお願いしております。病院ボランティアに興味のある方は、お気軽に事務局までお問い合わせください。皆様のご応募をお待ちしております。

ボランティア募集中

◎活動内容

- ・ 玄関前でのお出迎え・誘導・車椅子介助
- ・ 自動再来受付機の使い方の説明および案内

◎活動日時

- ・ 月曜日～金曜日（祝日は除く）
- ・ 8時30分～13時頃（この時間帯でご希望の時間）

◎活動場所

- ・ 愛媛県立中央病院 松山市春日町 83 番地

◎申し込み資格等

- ・ 特にありませんが、心身ともに健康な方

お問い合わせ・申し込み先
愛媛県立中央病院 病院サービス委員会 谷澤
☎089-947-1111(内線 7104)
FAX : 089-943-4136

お気軽にお申し込みください。
皆さんの応募、待ってるけん！



認知症看護認定看護師紹介

認知症看護認定看護師 **玉利 未来** たまり みく

皆さんは、認知症という病気にどのようなイメージを抱いているでしょうか。現在、日本では65歳以上の高齢者全体の約15%が認知症だといわれています。認知症であることは決して珍しい事ではありません。私も皆さんも、いずれ認知症になるかもしれないのです。

「認知症看護認定看護師」は、高齢な患者さんの認知機能や身体機能の低下を防ぎ、希望する生活が継続できるように、患者さんとその家族を支援する役割を持っています。

私は、認知症の患者さんが楽しく生き生きと生活できるように、患者さんの思いに寄り添う看護を大切にしています。認知症の人に優しい病院に、そして、皆さんに選ばれる病院にしたい。そんな風に思っています。

認知症看護認定看護師を中心に
患者さんの状態や治療方針について
情報共有・相談しています



▲認知症ケアチームのメンバー
(本人は前列右から2番目)



▲認知症ケアカンファレンスの様子

定員
50名

第44回 東洋医学公開講座

【内容】

東洋医学と心の不調

愛媛県立中央病院 漢方内科 鍼灸治療室

鍼灸師 山見 宝
医師 兵頭 沙梨

令和6年

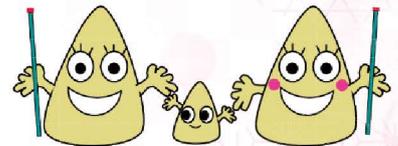
【日時】

1月15日 月 13:30~14:30
(受付開始13:00)

※事前申込が必要です。事務局へご連絡下さい。

【会場】

愛媛県立中央病院 管理棟 1階 講堂



鍼灸治療室マスコット



〈お問い合わせ〉事務局：愛媛県立中央病院 鍼灸治療室

〒790-0024 松山市春日町83番地 管理棟1階 ☎089-947-1111(代表)

No.52

医療安全管理部だより

皆さん、「世界患者安全の日」「医療安全推進週間」をお聞きになったことがありますか？

世界患者安全の日には、世界保健機関（WHO）加盟国が一丸となり、患者安全を推進するために人々の意識、関心を高め、国際的な理解を深めるための普及活動を行っています。

今年は「患者の声に耳を傾けよう」というテーマで、当院も含め5つの病院、近隣の保険薬局と共同で「世界患者安全キャンペーン」（患者安全の啓発物配布、ポスター掲示、病院ライトアップなど）を実施しました。実施したことが厚労省のホームページに載っているののでのぞいてみてください。

また、日本でも2001年を「患者安全推進年」と決め、様々な医療安全対策を推進しており、その一つとして11月25日（いい医療に向かってGO）を含む一週間（11月19日～11月25日）を「医療安全推進週間」と定めて取り組んでいます。

私たちは患者さんの声に耳を傾け寄り添いながら安全な医療が提供できるよう職員の教育活動や支援をしています。また患者さんにも医療安全のために、フルネームで名乗る事やお薬手帳の提示をお願いしています。これからも、ご協力よろしくお願ひします。



転入・転出医師 (2023.9.1~2023.11.30)

所属	氏名	専門
腎臓内科	山口 純代	腎疾患全般、血液浄化療法

所属	氏名
産婦人科	横畑 理美
小児科	井門 未来等
血液内科	森 正和
血液内科	諫見 俊宏

連携医療機関紹介 ～第32回～

医療法人 良美社 たかいわ小児科

- 所在地 松山市小坂4丁目7-12
- TEL 089-948-4470 ■FAX 089-948-4471
- 診療科目 小児科
- 外来診療時間 休診日 木曜・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	○	×
14:00~18:00	○	○	○	×	○	△ ~16:00	×

【病院の概要】松山市小坂にて2021年4月に開院した小児科です。伊予鉄道横河原線「いよ立花駅」より徒歩約11分、伊予鉄バス「小坂四丁目停留所」より徒歩約3分の場所にあります。

【病院の特徴】お子さまの急な不調から、喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー症状、夜尿症慢性腎疾患を含めた腎症状まで多様に対応しております。また、定期予防接種や乳幼児健診のほか、子育てに関する疑問にも丁寧に応じています。特に院内感染対策に注力しており、「一般診療（風邪、発熱、腹痛などの小児科疾患）」「予防接種・乳幼児健診」「隔離室（インフルエンザ・水ぼうそう・麻疹・おたふく風邪など感染力の強い疾患）」と3つの出入口・診療エリアに分割しています。また、ネット予約により待ち時間短縮と院内の密集を防ぐほか、呼び出しシステムにより診察まで院外やお車でお待ちいただくことも可能で、患者様に安心して受診いただける仕組みを心がけています。



ふるかわ内科クリニック

- 所在地 松山市古川南3丁目16-27
- TEL 089-956-7717 ■FAX 089-956-7727
- 診療科目 糖尿病内科・消化器内科・内科
- 外来診療時間 休診日 火曜午後・木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:30 (受付は12:00まで)	○	○	○	○	○	○ 13:30まで	×
14:00~17:15 (受付は17:00まで)	○	×	○	×	○	×	×

【病院の概要】2014年3月にはなみずき通り沿いに開院しました。伊予鉄バスの古川横田バス停から徒歩約5分の場所にあります。糖尿病、消化器疾患を中心に、内科一般診療を行っております。

【病院の特徴】予約優先で診療を行っており、電話で予約が可能です。糖尿病診療におきましては、当日に検査結果を説明できるようにしています。また上・下部内視鏡検査、腹部超音波検査にも対応しており、消化器疾患の診療にも力を入れています。時間の許す限り、スタッフ皆で丁寧に話を聞き、患者さんが納得できる治療を受けられるよう心がけています。またかかりつけ医として、地域の皆様に貢献できるクリニックを目指しています。



当院は、2010年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。（紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。）

